



H28年度 第2回小・中合同学校保健委員会を開催いたしました。

御多用の中、御参加いただいた保護者の皆様ありがとうございました。また、お問い合わせをいただくなど、学校保健活動への御関心・御協力をとても有難く、嬉しく思います。

今回の学校保健委員会の内容を簡単にまとめたほけんだよりを作成しました。気になることや御質問等ございましたらお気軽にいつでも御連絡ください。



<今回の内容>

- ・小・中各校実態報告 …… 各校養護教諭
- ・講演「子供のストレスと親のかかわり」 …… 学校医 戸田美波先生
- ・意見交流・質疑応答 …… 参加者全員
- ・子宮けいがんワクチンについて …… 学校医 戸田美波先生

「子供のストレスと親のかかわりについて」

- ・「成長する」ということはストレスフルであり、子供たちにとってストレッサー（ストレスの要因）になり得るものは、家庭、学校、地域社会のあらゆる場面に存在している。
- ・子供（特に小学生まで）の発達段階では、自分が感じているストレスを言語化できないことやストレスを自覚できず、頭痛や腹痛などの身体症状として表れることがある。
- ・ネット嗜癖（依存）は、精神疾患の診断として確立されたものではないが、専門外来がある等のことから、心身の健康面にも大きく影響してくるといえる。
- ・子供のストレスへの対応は、心の変化に「気づき」、「寄り添い」、大人の押しつけではなく、「一緒に対応策を考える」という姿勢が大切である。
- ・子供は、独自の挫折を経験しながら、少しずつストレス耐性を身に付けて成長していく。一人一人の声に日頃から耳を傾けることで、成長をサポートすることができる。

「意見交流・質疑応答」

各校実態報告や講話の中で出た「ネット依存」に関する意見交流が盛り上がりました。学校側と家庭側でみえている子供に関する問題点は、必ずしもいつも一致しているわけではないと思います。そのため、考えを共有できる学校保健委員会はとても貴重な機会だと改めて感じました。

※内容について裏面に続きます。





- ・ゲームやスマホを利用している間は、集中していて時間の概念が欠落する。そのため、時間を決めて（1日30分）使用させている。
- ・時間を決めていても守らない。
- ・「スマホで学習に関する調べものをしている。」と言われると、強く注意ができない。
- ・何事においても、学校でも家庭でも「時間を守る」というルールを徹底させることが大切。
- ・電子機器の利用時間について、医学的に推奨されている時間は特に定められていないが、2時間以上は好ましくないと考える。
- ・寝る場所にスマホやゲーム機器を持ち込ませない工夫が必要。
- ・保護者や教員も、大人として電子機器の使い方やSNSについて勉強していかなければならないと思う。

等

上記の様に多くの意見交流が行われました。会の記録をもとに、保護者・地域の方の御意見は学校で教職員全体に周知をし、学校としてできることを検討していきます。

「子宮けいがんワクチンについて」

- ・日本では、さまざまなメディアの報道により、「子宮けいがんワクチンは薬害である」といったイメージをもってもおかしくない状況にある。また、厚生労働省は「積極的ワクチン接種の勧奨を中止」としている。
- ・WHO（世界保健機構）はそんな日本の状況を名指しで批判するなど、国際的にみると「ワクチン接種のリスクより、がん予防の有益性を重視すべき」とされている。
- ・実際のワクチン接種による副反応の発生報告は10万人に2人程度の確率とかなり低く、副反応が出た患者の治癒率も約9割というのが現状。
- ・子宮けいがんは日本国内で年間約1万人が感染、約3000人が死亡している。（女性の約74人に1人が感染している）
- ・「ワクチン接種をした方がよい」というわけではなく、メディアで報道されていない情報を知ってほしい。
- ・12～15歳の女性は、定期接種（無料）であり、式根島診療所でも接種可能。



今回の学校保健委員会は、「子供の心」大きながテーマでした。保護者の方の御協力の下、昨年9月に実施した「テーマアンケート」の結果を反映させたものです。睡眠や電子機器の使い方等、一見「心」との繋がりが見えにくいものでも、子供たちの心の健康に大きな影響があることが確認できた会になったと思います。

主催者として至らない点も多々あったかと思いますが、回を重ねる毎に、より充実させていきたいと考えております。今後とも御協力をよろしくお願いいたします。